

提出日：平成 21年1月18日

第 34 回全日本教育工学研究協議会 全国大会・三重大会 参加報告書

陳 怡如（東北大学大学院情報科学研究科 博士課程前期 1 年）

調査・場所
第 34 回全日本教育工学研究協議会 全国大会・三重大会 (場所:三重県立亀山高等学校、津市 プラザ洞津、三重県総合文化センター)
日程
2008 年 11 月 21 日～2008 年 11 月 22 日
参加者
関本英太郎（教授）・鈴木大輔（情報科学研究科教育研究支援者）・韓放（情報科学研究科博士課程後期 1 年）・陳怡如（情報科学研究科博士課程前期 2 年）
目的
情報化社会において、教育現場が ICT 教材を利用した授業を進めていく現状、またそれに伴う課題について、そして情報化社会に欠かせない情報リテラシーやそれらの教材設計について理解を深める。
内容および成果
<ul style="list-style-type: none">・公開授業（三重県立亀山高等学校）<ul style="list-style-type: none">- 三重県唯一の情報の専門学科であるシステムメディア科は、パソコン教室、ハードウェア実習室、デザイン実習室が完備され、すべての教室でネットワーク（LAN）が活用できる環境となっている¹⁾。ほとんどの教室には、プロジェクター、コピー機、投影機、事務機などの他、パソコンが 20-30 台ほど設置され、授業で使用する際は学生一人に一台ずつ割り当てられる。パソコンは、列ごとに並べられている一般的なパソコン教室の配置方法（図 1）や、円卓がいくつかあり、それぞれに 5 台ほどパソコンが配置されているグループごとに利用できる配置方法（図 2）なども取り入れられ、目的別に異なったパソコン教室が利用できる。
図 1
図 2

- 1年生の授業では、ワードやパワーポイントなど基本知識も習得するが（今回の授業は、週末のワープロ実務検定試験の練習だった）、授業は実践も多く取り入れられている。例えば、1年生の「課題研究 3DCAD」の授業では、学生が自らの映像を 3DCAD ソフトウェアを使って制作。3年生の選択科目「Web ページデザイン」では自分のファッションショップをテーマにそれぞれのウェブページを作っている。
- 亀山高校は、「専門職を生かし、地域活性化に寄与できる人材の育成」²⁾もテーマに、高校生がインストラクターとなって公民館で市民向けのパソコン講座の開催も行っている。学ぶことだけでなく、いかに教えるか・伝えるかなどといった教える側に立ったときに必要なスキルも習得できるよう目指している。

・研究発表分科会（三重県総合文化センター）

《普通教室の ICT 環境における日英比較からの日本型モデルの検討》

- イギリスのほとんどの小学校の教室は ICT 環境が整っている。
- 日本でも ICT 教育機材の導入が必要かどうか、教師の意見を調査した結果、日常授業で有効に使えるかどうか（機材の固定設置、従来の教材との組み合わせ方など）が一番の要因となる。

《著作権を尊重する態度の育成を目指した指導用教材の開発》

- （小学生向けの著作権指導用教材）映像を用いて、心情面中心のストーリー構成を取り入れ、わかりやすく説明をする。
- 著作権者の顔が見えないため、著作権問題の実感がわからないということが課題として残されている。

《国語授業でのメディア表現活動》

- メディアを通して表現力、創造力を育むことが目的。
- 自分の視点を持ち、いかにメディアを通して情報を伝えるか、また自らの意見に対する先生・クラスメートのコメントについて考えていく取り組み。

《体験活動と番組視聴を交互に取り入れた学習の効果の測定》

- 日常的なテーマの番組を視聴した後、実際に見学し、関係者に取材をすることで体験（見学）前とその後の知識を比較し、考える力と学習能力の向上へ結び付ける。

《伝える活動を重視した社会科教育におけるタブレット PC の活用》

- タブレット PC や ICT 教材導入の目的は、生徒の学習意欲と伝える力の向上。
- 実際の授業では、PC を調べる・まとめる・伝えるために使用している。直接 PC に手書きができ、スクリーンに投影できるため、情報をクラス全員で共有したうえで、考えを広げたり、認め合ったりして活用できる。
- 従来の「書くノート」が「伝えるノート」「読んでもらうためのノート」に変わっただけでなく、どう伝えるのかを考えることを通して子供たちが積極的に取り組むきっかけとなった。

・まとめ

三重大会を通して、小学校、高校を中心とした情報教育を導入した現状について知ることができた。多くの教育現場や教師の間では、主に授業の効率化や生徒の学習意欲向上のために ICT 教

材を導入したり、情報化社会に必要な能力としての意識や知識を教えたりする取り組みが窺われる。効果が考察される一方、課題も依然と残されている。

ICT教材の導入に関しては、その必要性や、導入した場合においても従来の教育法と異なるため、教師が十分に活用できるのか、また、普及に伴う障害などもある（経済的な問題や、現在の教室環境など）。情報リテラシーにおいては、著作権問題などをいかに身近な問題として授業に取り込み、教えるのか、また、ネット利用の安全問題や表現の自由など様々な意見が議論されている話題も教え方そのものが難しい問題となっている。

今回は、現状理解と視察が主な目的だったが、三重大会参加を通して考察した現状及び課題を考えるうえで、情報リテラシープロジェクトにも活かしていければと思う。

参考資料：

- 1) 第34回全日本教育工学研究協議会 全国大会・三重大会 大会要領・資料集
- 2) 同上